



2013.10.

10月ちとせだより

神戸YMCAちとせ幼稚園

この夏休みに、神戸YMCA余島キャンプ場で実施されたあるキャンプを手伝いに行きました。そのキャンプは、小学校3年生から高校3年生までの12名を対象とした4泊5日の「余島セーリングキャンプ」というキャンプでした。集まった12名のキャンパーは見事に男子6名、女子6名のそれぞれ小学3年生から、中学生、そして高校生までがそろった仲間たちでした。そして、その12名が4艇のヨット（ディンギー）に学年・男女混合で分かれ、その各艇に1名の大学生のリーダーが乗り込み、余島から豊島まで2泊3日かけてセーリングに出かけるというものでした。1日約6時間はヨットの上で過ごし、予定の浜に到着すると、自分たちでテントを立てて、野外料理をして過ごすという見方によればとてもハードなキャンプ、しかし見方を変えればとても単純なキャンプともいえるものでした。そしてこのキャンプで何が一番興味深かったかと言えば、小学生から高校生までのほぼ10歳の差がある子ども同士が、ごく自然にこの5日間の生活を送っていたということでした。浜に着けば、小学生が波打ち際で遊んでいても、中高生は別に文句を言うでもなく当たり前のように様々な仕事を進んでやりますし、小学生がふざけて中高生にちょっかいをかけて来ても中高生は軽くいなしたり、またそんな遊びにもつき合っただけで、現代の生活の中ではほとんど目にする事のない光景でした。

子どもたちのこのような姿を見ていると、自分が子どもの頃に近所のお兄ちゃんにくっついて遊び、今度は自分が上級生になると自分より小さな子どもたちを引き連れて遊び、面倒をみていた頃のことを思い出しました。そして、今いちばん無くなってしまったのが、こういった異年齢の子どもたちが関わる子どもの世界ではないでしょうか。現代の子どもたちは、ほとんどの生活の時間を同年齢の集団で過ごし、また様々な場面で比較され、競わされることが多い中で過ごしています。そんな中では、他者を頼ったり、助けを求めたり、また今度は自分が助けてあげたり、面倒をみたりといった経験がないままに大人になっているのでしょう。兄弟姉妹の数も少なくなり、異年齢の子ども集団が喪失し、常に比較され競わされる子どもたちが、不安な気持ちを抱えて人に対する信頼を持たず、精神的にしんどくなってしまいうも無理がないように思います。しかし、そんな現代の子どもたちであっても、異年齢の子どもたちの集団の中の一員になれば、それぞれの立場を理解し役割を果たすことが喜びでもあり、また楽しみでもあると感じさせてくれたキャンプでした。

子どもが人間として成長するためには、ある時には年長者に助けられ、またある時には年少者の世話もし、その集団の中で自分が果たすべき役割も変化していきながら、その時々々の役割を果たす経験を重ねていくことが大切なのです。個別の課題を与えられ、それに応えていく生活では、自分自身が今何をなすべきなのかを判断することさえ出来なくなっても不思議ではないでしょう。

幼稚園という限られた環境の中であっても、子どもたち同士が自由に交わり、その中で子ども一人ひとりが自分で考え判断して行動していくことが出来る人間として成長していくことが出来るように、日々の保育のあり方を考えていきたいと思えます。